

講師：松田健嗣

演題：これまでの歩みと今取り組んでいること ～アナログとデジタル～

抄録：

専門学校卒業後、保険メインのラボに勤め、1度歯科技工業界から遠のき一般企業のサラリーマンを2年した。その後もう1度歯科技工業界に戻ろうと思い復帰。勉強会へ参加した事がきっかけに、色々な人達と出会いがあり大きく道が変わっていった。

現在、新しいマテリアルが出てくる中、患者が喜ぶ補綴物を製作する事やチェアサイドが円滑に進むことを考慮し、日常臨床に励んでいる。

今回は今までの道のりを振り返りつつ現在取り組んでいる、アナログではオパシティブコントロール、デジタルでは現時点で当ラボが行っている事を中心にお話しできればと思う。

---

講師：石原広規

演題：アメリカでの経験から伝えられること ～今、歯科技工士として出来る事～

抄録：

歯科技工士の減少が問題となっている今、歯科技工士・歯科技工所として出来る事の可能性を広げる1つのヒントとして専門学校を卒業後、渡米し、そこから17年に及ぶアメリカでの私生活や仕事の取り組み方、日本とアメリカの喜ばれる歯の形態・色の違いや現在弊社で進めている事を伝えたい。チーム医療の観点から歯科技工士として患者様を笑顔にするためにできることを考える。

---

講師：井上陽介

演題：歯科治療における歯科技工士の役割 ～これからの時代を踏まえ考えなければならないこと～

抄録：

近年、歯科業界におけるデジタルの進歩は著しく、特にクラウン・ブリッジの補綴装置を製作する工程においては大きく変化している。また、多くの優れた材料の開発によって、より簡単に審美性の高い補綴装置の製作が可能となっており、このような新しい技術や材料を上手く活用することで多くの恩恵を得ることが出来ると感じている。

しかし、最新の機材や材料を使用することが良好な治療結果につながるのではないと思う。患者にとって必要とされる補綴装置の目的や考え方などは変わっておらず、先人の方々からの教えを継承しながら、新しい技術への対応をしていくことが必要とされると考える。そこで今回、これから歯科技工を行っていくうえで必要となることについて、私が歯科技工士になってからの約20年という短い期間ではあるが過去を振り返りながら考えてみたい。